



2021年11月11日

各 位

会 社 名 日 医 工 株 式 会 社
(証券コード 4541 東証第1部)
代 表 者 名 代表取締役社長 田 村 友 一
お問合せ先 上 席 執 行 役 員 管 理 本 部 長
石 田 修 二
TEL 076-432-2121

棚卸資産評価損の計上及び業績予想の修正並びに配当予想の修正（無配）に関するお知らせ

当社は、2022年3月期第2四半期決算（2021年4月1日～2021年9月30日）において、棚卸資産評価損の計上を行うとともに、2021年8月10日に公表いたしました2022年3月期第2四半期連結業績予想及び通期連結業績予想、並びに2022年3月期中間配当予想及び期末配当予想を下記の通り修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 棚卸資産評価損の計上について

当社は富山第一工場製造全品目について、信頼回復に向け4月以降FMEA※による品質評価を行い順次生産・出荷を再開しております。しかしながら、富山第一工場製造品について、当社グループで保有する同種同効成分製剤へ統合を図ることが可能なもの、一定の時間をかけて改善措置を図ることができるもの、製造再開に想定以上の時間を要することが見込まれるものに区分した上で検討を行った結果、今後廃棄となる可能性が高いと見込まれる原材料、仕掛品等について棚卸資産評価損48億37百万円を計上することといたしました。

※FMEA（Failure Mode and Effect Analysis）とは「欠陥モード影響解析」と呼ばれ、製品及びプロセスの持っているリスクを、主に製品設計段階及びプロセス設計段階で評価し、そのリスクを可能な限り排除又は軽減するための技法です。ICHQ9でもリスク評価の方法として推奨されており、製薬企業でのリスクアセスメントで広範囲に利用されております。

2. 業績予想の修正について

2022年3月期第2四半期（累計）連結業績予想（2021年4月1日～2021年9月30日）

	売上収益 (百万円)	コア営業利益 (百万円)	営業利益 (百万円)	親会社の所有者 に帰属する四半 期利益 (百万円)	基本的1株 当たり四半 期利益 (円)
前回発表予想(A)	94,000	△5,000	△5,200	△5,300	△82.61
今回予想(B)	85,900	△8,800	△14,100	△14,600	△224.40
増減額(B-A)	△8,100	△3,800	△8,900	△9,300	
増減率(%)	△8.6	—	—	—	
(参考) 前期第2四半 期実績 (2021年3月期 第2四半期)	89,631	1,360	523	146	2.28

(修正の理由)

売上収益については、富山第一工場製造品について厳密な品質リスク評価とリスク低下策を実施し慎重に当局と協議しながら出荷再開を進めていること、及び後発薬市場の状況から生産再開品目の優先度を見直したことなどから富山第一工場での生産・出荷再開スケジュールに当初予定より遅れが生じ市場への出荷品目数・数量が当初見込みを下回ったことから、前回予想の940億円から859億円に修正いたします。

コア営業損失につきましては、売上計画未達による売上総利益の減少などにより、前回予想の50億円から88億円に修正いたします。

営業損失、親会社の所有者に帰属する四半期損失については、売上計画未達による影響に加え、上記棚卸資産評価損を計上したことなどにより、営業損失については前回予想の52億円から141億円に、親会社の所有者に帰属する四半期損失については前回予想の53億円から146億円にそれぞれ修正いたします。

2022年3月期通期連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上収益 (百万円)	コア営業利益 (百万円)	営業利益 (百万円)	親会社の所有者に 帰属する当期利益 (百万円)	基本的1株 当たり当期 利益 (円)
前回発表予想 (A)	195,000	700	500	200	3.12
今回予想 (B)	185,000	△11,900	△17,100	△18,600	△275.39
増減額 (B-A)	△10,000	△12,600	△17,600	△18,800	
増減率 (%)	△5.1	—	—	—	
(参考) 前期実績 (2021 年3月期)	188,218	977	107	△4,179	△65.28

(修正の理由)

富山第一工場における生産・出荷が第3四半期以降も漸増し、今後の業績は改善傾向に向かっているものと見込まれます。しかしながら、第2四半期までの生産・出荷スケジュールからの遅れの影響は当連結会計年度期間中続き、さらに売上総利益率の高い品目についての生産・出荷再開の遅延が見込まれます。それに加え、第2四半期連結累計期間の業績予想が大幅な減収減益となったことなども勘案し、通期の業績予想については、売上収益を前回予想の1,950億円から1,850億円に、コア営業利益を前回予想の7億円から119億円のコア営業損失に、営業利益を前回予想の5億円から171億円の営業損失に、親会社の所有者に帰属する当期利益を前回予想の2億円から186億円の親会社の所有者に帰属する当期損失に、それぞれ修正いたします。

3. 配当予想の修正について

	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回発表予想 (2021年5月14日)	10円00銭	10円00銭	20円00銭
今回修正予想	0円00銭	0円00銭	0円00銭
当期実績			
前期実績 (2021年3月期)	15円00銭	10円00銭	25円00銭

(修正の理由)

当社は、株主の皆様への適切な利益還元を継続することを重要政策のひとつとして位置付けており、あわせて配当性向、企業体質の一層の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを勘案して決定する方針を採っております。

しかしながら、上記「2. 業績予想の修正について」の通り、2022年3月期第2四半期及び通期で大幅な赤字決算となる見込みであることから、誠に遺憾ながら、中間配当予想及び期末配当予想について無配に修正させていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、早期の業績回復、復配に向けて努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(注) 上記に記載した予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、今回の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の第6波の発生など、今後予想されるリスクによる影響は考慮しておりません。開示すべき重要事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上